

## 【安来市】 校務DX計画

### 1. 校務系・学習系ネットワークの統合

安来市では、学校が利用するネットワークが、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分かれており、双方のデータ共有がスムーズにできない構成となっている。また端末も2台持ちとなっているため、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、教員用端末の1台化を進め、校務系・学習系ネットワークの統合を行う。

また、校務系データも学習系データも同一のクラウドで処理することが可能となるよう「ゼロトラスト」の概念に基づき、安全性と利便性を兼ね備えたクラウド環境を構築していく。

### 2. クラウドサービスの活用

安来市では、FAX利用や押印についての原則廃止を進めるとともに「Google Workspace for Education」を活用し、Google classroomによる教職員と児童生徒のデータ共有や学校から保護者への連絡、Googlechatやポータルサイトによる学校内の連絡、職員間の情報共有等を進めている。

今後も制度や従来への慣行の見直しを行い「Google Workspace for Education」を中心にクラウドサービスや業務支援ツールを積極的に用い、さらなる業務の効率化取り組んでいく。

### 3. 次期校務支援システムへの移行

校務支援システムについては、令和3年度に統合型校務支援システムを構築、令和4年度から稼働させており、これにより不合理な手入力作業は一掃された。

しかしながら、現行のシステムは校務系ネットワークからのアクセスに限定されているため、学習系で生成されたデータと校務系データとの連携ができない、ロケーションフリー対応が困難であるなどの課題を有している。

こういった課題を解消するために、校務支援システムの次期更新にあたっては、島根県が主導する県内共同調達も視野に入れながら、次世代型校務支援システムへ移行を行う。